



重誓寺報

第12号 平成21年9月発行

夏休みに沖縄・石垣島へ行ってきました。

満天の星空、流れる天の川を見てみると時間の経つのを忘れてしまいました。

数え切れないほどの星を見ていると自分の小ささを痛感するとともに、その中で、命を頂き育んでいる不思議さを感じさせてくれます。

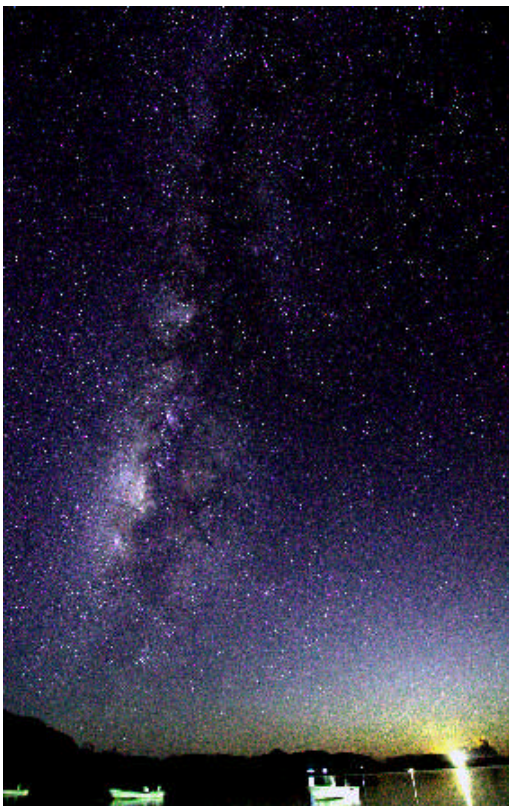
その後石垣には台風が襲い、また地震が多発しています。あの穏やかな姿からは考えられません。

今年も各地で豪雨や地震の被害が起きています。

天災は忘れた頃に・・・と言いますが、天災の少ない大阪の住人にすればこれを忠告であると受け止め、しっかりと準備しておかなければなりません。

実は沖縄でビデオカメラを誤って海に落とし、壊してしまいました。

しかし、たまたま入っていた保険のお陰で、少しの負担で新品になりました。まさに「備えあれば憂いなし」です。



法座のご案内

重誓寺では毎月、二十日

(三、五、九、十一月は二十日、二十一日)

法座が勤まります。

勤行約三十分、法話約一時間

浄土真宗にとって一番大切なことが、
仏法を聞くこと、いわゆる聴聞であります。
お忙しい方は夜だけでもお参り下さい。
椅子席もございます。

九月二十日、二十一日 昼二時 夜七時

秋季永代経法要

講師 巖水 法乗 師

十月二十日 昼二時 夜七時

常例法座

講師 宏林 晃信 師

十一月二十日、二十一日 昼二時 夜七時

報恩講法要

講師 不死川 浄 師

十二月二十日 昼二時 夜七時

常例法座

講師 中西 昌弘 師



浄土真宗の基礎知識

法事や月参りなどを勤める時、施主から僧侶に差し出す金封には「御布施」と書かれます。

この御布施は、お寺のご本尊・阿弥陀如来にお供えするものであり、僧侶に対する報酬ではありません。

それがお寺の護持、また仏法を門信徒の方々へお伝えし、広めるために使われています。

御布施以外の「御札」「御経料」「回向料」などは、如来様に捧げる趣旨から言ってふさわしくありません。

また他家の葬儀や法事に参列する場合は「御仏前」と書きます。

「御霊前」と書いたり、すでに印刷された物までありますが、故人の霊に供えるのではなく、如来さまにお供えするので

すから、「御仏前」なのです。

他に「御供」「御香典」「御香儀」などが使われます。

かつては御供えで代表的な物と言え、お香でしたので、その香を求めるための代金という意味であります。

水引の色は、葬儀・中陰など悲しみの時は黒白、入仏法要や報恩講などの慶びには紅白、その他は黄白というのが一般的です。

さてその額ですが、あくまで自ら進んで上げる性質のものです。

「よろこんでさせていただく気持ち」が大切であります。

金額を気にするよりも、その本来の意味を大切にして頂きたいものです。

(参照..「仏事のイロハ」より)

先日、知り合いのお寺さんの末っ子、摩耶ちゃんが一歳を過ぎたばかりで突然亡くなりました。

少し前まで、行事でお会いしたり、お父さんの車に乗って訪ねて頂いたり子供らも親しくさせて頂いていました。

病名は原因不明の急性出血性脳症だそうです。

頂いたご挨拶の文章の一部を紹介させていただきます。

あまりに突然に、厳しい現実をつきつけられました。

今は使われずに残されたベビーカーやチャイルドシート等を見るたびに寂しさ

が込み上げてきますが、朝な夕なに

子供たちが率先して中陰壇に合掌す

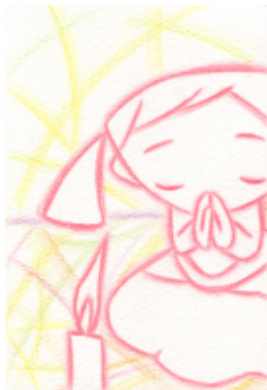
る姿を見て、仏様と成った摩耶のはたら

きが私たちを導いてくれていると喜んで

おります。

摩耶は自分達の子供だと思っていました。が、今となっては阿弥陀様からの大切な預かり物であったのだと思っています。

命の終わりは必ずしも順番であるとは限りません。「先立つ人は我が師なり」今、生きているこの命をいただき、そして見守ってください。仏様や先人への感謝を忘れないようにしたいものです。



浄土真宗 本願寺派(西本願寺)重誓寺

じゅうせいじ

大阪市旭区中宮2-4-19 電話・FAX06(6951)0090

<http://park6.wakwak.com/~juseiji/>

ホームページからバックナンバーを含めご覧いただけます。